

CIRAC談話室

財団法人中部産業・地域活性化センター

前常務理事・事務局長 草野潔人

この談話室では過去3回にわたって、現在財団が取り組んでいる「産業連関表」の研究を読者にわかりやすく説明してきた。理解するのに経済学の専門知識が必要とされる研究内容を平易なことばで解説をすることは、骨の折れる作業であった。研究員が「これ以上、どうわかりやすく説明するのか？」と悩む隣で、私は「えー？どうして小学生のアケミちゃんにこれが理解できるんだ？私は小学生以下か？」と落ち込み、何度も繰り返して読んだ。幅広い地域の会員に支えられる財団法人のシンクタンクは、研究成果をわかりやすく説明しようとする一方で、読者にも一定の勉強をお願いしなければならない。だから読者から、「あの談話室は面白かった！」と言われた時には、嬉しさと同時に、その読者に尊敬の念を抱いてしまう。

そんな仕事をしていた本年7月、地方シンクタンク協議会が主催する「地方シンクタンクフォーラム」に参加する機会を得た。場所は金沢、テーマは「観光」。今年度は東日本大震災を機に、観光が地域に果たす役割をもう一度考えるという目的で開かれた。その中で特に印象に残ったのは、日本で「ラグジュアリーインバウンド」の受け入れ体制強化に取り組む「The Real Japanいしかわプロジェクト推進協議会」による発表であった。この協議会は、本物、本質、希少性にこだわる海外の富裕層マーケット（ラグジュアリーマーケット）に的を絞って、日本文化の魅力を発信する事業を行っている。

日本には世界に誇れる歴史と伝統を背景にした素晴らしい文化がある。このフォーラムでも多く

の石川県の文化や観光地が紹介され、その一部を体験する事ができた。それは実に素晴らしいものであり、もっと深く知りたいと感じさせる魅力ある内容であった。一方で、旅行者にはそれなりの費用に加え、一定の教養と事前勉強も必要となる。「ラグジュアリーツアー」ということばは、今回のフォーラムで初めて知ったが、地域おこしにつながる観光事業としてだけでなく、地域の文化と伝統を守るために必要不可欠な産業であると痛感した次第である。

しかし今の社会経済は、富裕層マーケットとは反対のマーケットに比重が移りつつある気がする。広告を見れば、飲み放題、食べ放題、使いたい放題の、「安さ」と「手軽さ」を強調した商品ばかりだ。確かに「安さ」と「手軽さ」は、今の我々のニーズに合っている。例えが適切でないかもしれないが、私はコーヒーが好きで良く飲むが、インスタントコーヒーのおかげでコーヒーと出会った人は世の中に多いと思う。その点でネスカフェの功績は大きい。しかし時には、もっと美味しいコーヒーも飲みたい。値段は高くても、時にはブルーマウンテンの香りを味わうのも良い。世の中、インスタントコーヒーだけになっては寂しい。要はそれぞれの役割分担だと思う。あらゆる分野において、高級ではあるが本物志向のマーケットが一定のシェアを占め、日本の文化や伝統を守って欲しい。

当然のことながら消費者にも、コストと勉強という一定の負担が必要となるが、何とかこのマーケットが成り立つ仕組みができないものだろうか。

談話室での勉強を復習するわけではないが、地

域の伝統と文化に根差したラグジュアリーが盛んになることは、産業連関表にも地域経済にプラスとして表れるのではないか。コストを安く抑えるために多くの商品を地域外から仕入れ、それを組み合わせて販売するよりも、地域内の伝統的な文化を体験してもらい、食べ物、お土産、サービスなど全て地元産のものを消費してもらえれば、同額の携帯電話を購入するより、地域内への経済波及効果はずっと大きいはずだ。例えば愛知県なら、旅行者がお昼に三河産の鰻を使ったひつまぶしを食べ、ティータイムには西尾産の抹茶を飲み、夜は名古屋コーチンの焼き鳥と日本酒の蓬萊泉「空」を飲んでもらうのも良い。そしてお土産に有松絞りの浴衣を買ってもらうのが、最高のお客さんということになる。

しかし地域の文化や伝統はその一部分しか市場価値として評価されず、そのすべてを産業連関表で捕捉することはむずかしい。伝統ある古い建造物や地域の景観など、重要な地域の社会資本でありながら、その社会的、経済的な効果は測りにくい。一方でそれらを維持していくための投資費用は確実に発生する。これらのコストは誰が、どうやって負担すべきなのだろうか。

観光庁が行った「訪日外国人消費動向調査」を見ると、訪日中国人は、一度目の訪日ではショッピングを楽しむ人が多いが、次回の訪日時には、自然、四季の体感や日本の歴史・伝統・生活文化の体験をしたいという意向を持つ人が多いことがわかる。これに応えるために、今後ますます地域の文化や伝統を活かしてインバウンド観光客を増やしていく必要がある。その中でラグジュアリーも徐々に拡大出来れば、地域の伝統や文化を守り、育てることができると思う。いつかCIRACの地域間産業連関表が、そのお手伝いをできればよいと思う。